

ご挨拶

筋の通らないところに結果は出ず、取り組むからには結果を出さねば意味が無い。結果を出すべく責任を持って取り組む姿勢を忘れず、結果が出なければ、原因分析し、改善策を考える。この基本を徹底し、日々勉強を怠らず、経験を糧とし、学んだことを活かし、これら積み重ねが力となって、ようやく国家・国民に貢献できるようになると考え、地道に歩んでまいりました。

私は、国政課題と向き合う時、当たり前ですが、常に「公＝国家」を意識しています。昨今、残念なことに、様々な課題に対し、目先優先の個別最適解を求める暫定的な対応が散見され、暫定的な対応の結果、更に別の課題が発生する等、悪循環に陥りかけていると感じています。国の対応力は無限では無いことから、状況や問題点を精査・分析し、根本的な所からの見直し・建て直しを図り、中・長期的視点で包括的かつ少しでも恒久的に近い解決策も合わせて模索していかないと、いずれ国家が機能不全になり、いよいよ暫定対応すらできなくなるのではという危機感すら持っています。まして、大変厳しい安全保障環境に加え、今後、本格的に到来する少子高齢化・人口減少社会は、未だかつて、私たちが経験したことの無い社会であり、既存の対応で乗り切れることは難しくなります。

それゆえ、私は、従来の枠組み通りに解決策を考えるだけではなく、私たち日本人が育んできた知恵を最大限発揮し、切り口を変えたり、バラバラに機能しているものを繋げたり組み替えたり、重複しているものをまとめる等、課題解決の軸を明確にして再構築することで、今のうちに国力の強化を図り、迫り来る厳しい将来に少しでも備えたいと考えています。

AIなど便利なツールも多数出てきましたが、どう使いこなすかは人次第であって、やはり最後は人なのだと思います。私は、一貫して「国づくり、地域づくりは、人づくりから」を信条に、どの国政課題と向き合う時も、人づくりは必ずセットで取り組んできました。

まだまだ課題は山積みです。中途半端な取り組みで終わるわけにはいかない、強くそう思って活動しております。どうか皆様のご指導を賜りますことを切にお願い申し上げます。

参議院議員 赤池 誠章

赤池まさあきプロフィール

昭和36年山梨県生まれ。明治大学政治学科卒業。松下政経塾で松下幸之助氏に「人づくり」の重要性を学ぶ。自動車整備士養成の専門学校長を経て、衆議院議員に初当選。平成25年参議院議員選挙比例代表(全国区)で国政復帰。国土交通委員会理事、文部科学大臣政務官、文教科学委員長、党文部科学部会長(三期)、内閣府副大臣等を務め、現在、党政務調査会副会長三期目。自動車整備議員連盟幹事長代理、安全な自動車の車体を確保する議員連盟事務局長、自動車整備人材育成会議座長等。参議院議員二期目。

<https://www.akaike.com>

〔後援会事務局〕

〒400-0032 山梨県甲府市中央1-1-11-2F
TEL 055-237-5523 FAX 055-237-5281

〔国会事務所〕

〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館524号室
TEL 03-6550-0524 FAX 03-6551-0524

参議院選挙の投票方法

「2回」投票します

- ①都道府県選挙
- ②比例代表選挙

① 都道府県選挙区



各都道府県の候補者名を書いて投票します。

② 比例代表（全国区）選挙



全国どこからでも、**比例区の候補者名**を書いて投票できます。

(政党名でも可)

比例代表選挙は、政党名およびその政党に属する候補者個人への投票数の合計に応じた各政党への議席配分から、候補者名での投票数の多い順に当選者が決まる非拘束名簿式です。

《後援会入会のご案内》

【討議資料】

自民党

日々勉強、
結果に責任！



活動報告は
こちらから

参議院議員 比例代表（全国区）

赤池
まさあき

国づくり、地域づくりは、人づくりから

自動車産業は、整備なくして発展なし!!

我が国最大の自動車産業は、製造・販売・利用・整備等と大変裾野が広く、世界に冠たる産業群です。我が国は、車がなければ生活も経済も立ち行かないクルマ社会です。そして、今まさに100年に1度と言われる技術革新が進み、今後、自動運転車等の先進自動車が進化すればする程、ますます安全で環境に配慮した整備の重要性が高まっていきます。さらに、2050年脱炭素化に向け、政府では2035年新車販売の電動車比率100%の目標を掲げていますが、電気自動車のみならず、ハイブリッド車や燃料電池車等、多角化戦略を展開するとともに、環境に配慮した合成燃料開発の前倒しによって、エンジンを残す道筋もつけようとしています。これらの技術革新に、自動車整備は不可欠であり、「整備なくして、発展なし!」です。

日々勉強 (取り組み続けていること!)

▶ 新技術対応等、 予算・税制・制度で支援!



クルマ社会の中で、自動車整備工場は必要不可欠です。新技術対応や生産性向上、人材確保に向け、引き続き、予算・税制・制度による支援に全力を尽くします。スキャンツールをはじめとした各種補助金等、必要な予算の確保や、賃上げ等の税制による支援、そして、年度末の繁忙期対策として、車検の受検可能期間を1ヶ月前から2ヶ月前へ期間を拡大し、整備工場から整備士を派遣する訪問特定整備の解禁も推進していきます。

▶ 教育機関と連携し、 人手不足対策!



教育機関等と連携し、人手不足対策に取り組んでいます。自動車教育推進に向け、工業高校の課題を産学官連携で解決に繋げる体制づくりや、小中学校の職場見学や体験活動に整備工場を取り入れてもらうよう、活動を展開しています。奨学金制度の拡充はもちろん、今後、整備士の資格制度を見直し、整備士の新たな仕事として、急拡大する物流ドローンや空飛ぶクルマの整備も加え、若者にとって夢のある職業にしていきたいと思います。

▶ 価格交渉と転嫁を促進し、 処遇改善!



処遇改善の強力な推進を目指し、価格交渉と転嫁の促進に力を入れています。関係各所に働きかけを行った結果、国交省によって価格交渉の修理工賃実態調査が行われ、標準作業時間の実態や工賃単価交渉の好事例の調査公表、そして、価格交渉と転嫁の指針(ガイドライン)の策定まで漕ぎつけました。引き続き、ガイドライン活用の促進に全力を尽くしてまいります。

結果に責任!! (これまでの実績!)

安全で環境に配慮した新技術に対応しつつ、整備空白区を出さないためには、生産性向上が不可欠です。令和2年の道路運送車両法の改正で、**特定整備制度の導入**に繋げ、OBD検査の開始に伴い、その検査に不可欠な**スキャンツール(パソコン含む)補助金を年額2億→7億→14億円と拡充**してきました。また、経営革新や投資促進、賃上げに加え、事業承継等に対する**補助金、そして、税制や金融支援の強化**にも取り組んでまいりました。

自動車整備士の求人倍率は5倍にもなり、人手不足が深刻です。そこで、自動車整備士養成の専門学校長であった私自身の経験も活かし、教育機関との連携に取り組みました。**工業高校校長会、自動車関連の専門学校・短大、自動車関係団体による意見交換の場をつくり**、産学官連携のもと課題を解決していく体制に道筋をつけるとともに、順次、**奨学金制度の充実**も図りました。また、**自動車やオートバイの国際レースに工業高校生を招待**して、その魅力を体感してもらう活動も展開中です。

物価高を乗り越え、賃上げに繋げるため、価格交渉と転嫁を精力的に推進してきました。関連省庁へ働きかけを行った結果、金融庁は、昨年2月に車体整備工場3千社を調査し、損保会社に工賃引き上げの要請をするに至りました。**整備業の年平均賃金は488万円へと上昇**して全業種507万円に迫り、**平均工賃は約5%(前年2.7%)引き上げに繋がった**とされています。昨年夏には、国交省に専用の情報提供窓口が開設され、関係省庁連携のもと価格交渉と転嫁を推進する体制ができ、処遇改善へと繋がっています。